

3 主な業務内容 Contents of Main Activities

1 展示 Exhibition

●常設展示(1F)

板橋区の歴史について紹介します。
敷地内には、江戸後期に建てられた古民家(旧田中家住宅)や、板橋宿で栄えた貸座敷「新藤楼」の玄関が移築されています。



常設展示の様子

●企画展示(2F)

年に複数回おこないます
(特別展、収藏品展など)。

●コレクション展示(1F)

常設展示室の一角で、当館
収蔵のコレクション資料を紹介します。

●ミニ企画展示(1F)

常設展示室の一角で、季節やイベントに合わせた展示をおこないます。2F企画展示と連携する場合もあります。



古民家(旧田中家住宅)



板橋宿貸座敷「新藤楼」の玄関

2 講演会・シンポジウム

Lectures / Symposiums

企画展示の開催中に、展示テーマに沿った内容の講演会やシンポジウムなどをおこないます。

3 博物館講座・体験学習・年中行事

Lessons on this museum / Hands-on learning / Annual events

古文書講座や勾玉づくり体験などを実施します。古民家では年中行事の飾りが楽しめます(桃の節供・端午の節供・タナバタ祭り・お月見・マユダマ飾りなど)。



桃の節供(ヒナマツリ)

4 武者行列事業

Samurai's procession activity

区内のまつりで武者行列をおこないます。地域の子どもたちが鎧や着物姿で練り歩きます。※協力:いたばし武者行列保存会

毎年5月5日(こどもの日)には、鎧の着付け体験を当館中庭でおこないます。古民家を背景に記念撮影ができます。



武者行列

5 レファレンスサービス Reference service

板橋区の歴史や文化についての問い合わせを随時受け付けます。
また、夏休み期間中は自由研究相談対応もおこないます。

4 利用案内 Usage Guidance

開館時間

9時30分～17時00分(入館は16時30分まで)
9:30 a.m. - 5:00 p.m. (permitted to enter until 4:30 p.m.)

休館日

月曜日(ただし、月曜が祝日の場合は開館し、翌日休館)
年末年始 ※展示の入替えや設備点検等で休館する場合があります
Closed on Monday (in the case of any national holiday on Monday, opened on Monday and closed on the following day) and New Year's Holidays.
※It may be closed due to change of display, any equipment inspection, etc.

入館料

無料 Free of charge

交通案内

※駐車場はございません。

●徒歩

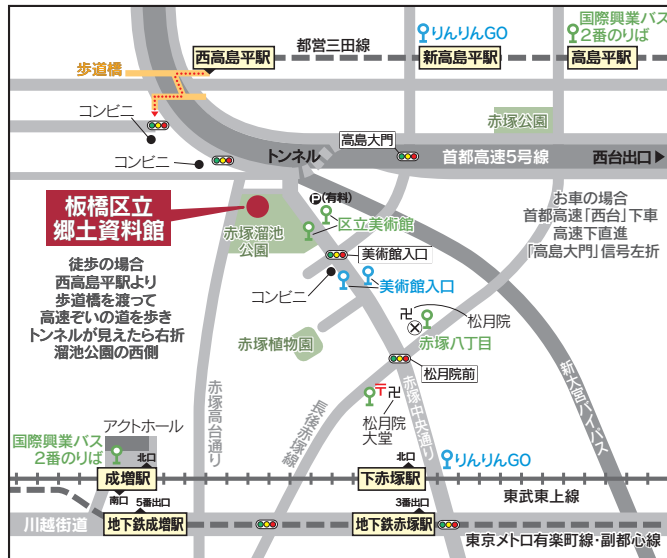
- ①都営三田線「西高島平駅」下車 徒歩13分
- ②東武東上線「成増駅」下車・東京メトロ「地下鉄成増駅」下車 徒歩23分

●タクシー利用

都営三田線「高島平駅」西口または東武東上線「成増駅」北口から 約5分

●バス利用

- ①都営三田線「高島平駅」下車 西口2番バス乗場から国際興業バス(区立美術館経由成増駅北口行)にて区立美術館下車 徒歩2分
- ②東武東上線「成増駅」・東京メトロ「地下鉄成増駅」下車 北口2番バス乗場から国際興業バス(区立美術館経由高島平操車場行)にて区立美術館下車 徒歩2分
※美術館を経由しないバス(系統)もあるので乗車前に確認してください



郷土資料館



郷土資料館



生涯学習課



板橋区立郷土資料館

〒175-0092 東京都板橋区赤塚五丁目35番25号
TEL.03-5998-0081 FAX.03-5998-0083

E-MAIL kyoudo@city.itabashi.tokyo.jp

ホームページ https://www.city.itabashi.tokyo.jp/kyodoshiryokan/



令和7年度

展示案内



高島秋帆肖像画(部分) 松月院所蔵



阿蘭陀直伝高島流砲術巻(部分)

ITABASHI HISTORICAL MUSEUM

Information about Exhibition In April, 2025 - March, 2026

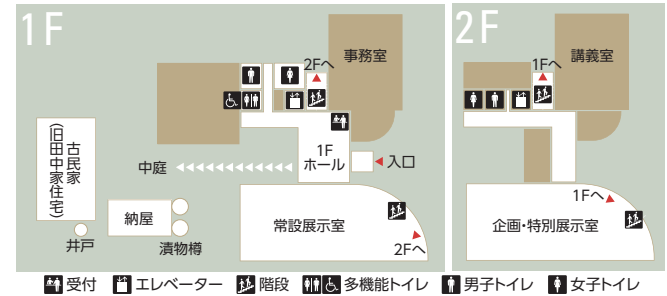
1 館紹介 Introduction of Museum

板橋区立郷土資料館は、昭和47年(1972)開館の文化施設です。赤塚城址および赤塚溜池公園に隣接しています。当館では、板橋区の歴史や文化に関わる資料を保存・調査しています。また、展示や教育普及事業を通じ、地域文化振興を図っています。



郷土資料館外観

Itabashi Historical Museum, next to Akatsuka Castle Ruins (Akatsuka-Jyoshi) and Akatsuka Pond Park (Akatsuka-Tameike-Koen), was established in 1972. This museum preserves/investigates some materials regarding history/culture of Itabashi City, and tries to promote the regional culture through display and educational promotion activities.



2 主な収蔵資料 Main Collection Materials

板橋区に関わるコト・モノの資料を収蔵しています。

●中山道板橋宿

Nakasendo Itabashi-shuku



●幕末の砲術家・高島秋帆と西洋流砲術

TAKASHIMA Shuhan (an artist in the late Edo period) and western-style artillery



●戦時中の生活や学童疎開

Life during the war and evacuation by school children



●煎茶道

Sencha-do (Japanese green tea ceremony)



●江戸・明治期などの古文書

Ancient documents mainly during the Edo period/Meiji period



●民具(農機具など)

Articles for everyday use (agricultural implements, etc.)



●甲冑刀剣類

Armor/Swords, etc.



●伝統工芸

Traditional crafts



●人類学者・石田収蔵の北方民族調査

Survey on northern people by ISHIDA Shuzo (an anthropologist)



令和7年度 展示内容

Information about Exhibition in April, 2025 – March, 2026

パネル展

令和7年4月12日(土)～6月22日(日)
April 12 (Sat.) – June 22 (Sun.)

板橋区史跡公園整備準備展覧会シリーズ ver.4 点と点と展 ～かかわりなずむ津々浦々と～

板橋区史跡公園(仮称)の舞台、国史跡「陸軍板橋火薬製造所跡」は、駅からちょっぴり歩く場所にあります。

ですが、この地は「ローカル」な史跡ではありません。その歴史を丁寧に振り返ると、板橋区内はもとより全国、全世界と深く結びついていた場所であることがわかるのです。

本展は、そんな史跡と全国、全世界の「津々浦々」とのつながりに注目します。海を越え、山を越え、時空を越えて、史跡とかかわりなずむ津々浦々を旅する展覧会。史跡公園発、日本・世界各地行きの旅に、さあ出かけましょう。

本展は令和7年1月20日から30日まで板橋区立中央図書館で開催したパネル展の巡回展です。



理化学研究所記念史料室所蔵

企画展

令和7年7月19日(土)～9月21日(日)
July 19 (Sat.) – September 21 (Sun.)

戦後80年 区民が生きた戦争の時代

昭和20年(1945)8月15日に終戦となってから、令和7年(2025)で80年を迎えます。これを機に、新たに区民から寄せられた当時の資料や情報に加え、これまでに郷土資料館に寄贈された戦争関連の資料を公開します。

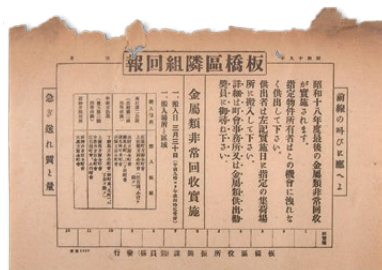
出征した人たち、いわゆる銃後を守った人たち、学童疎開をした子どもたち、勤労動員の学徒たちなど、それぞれの立場で経験した戦争の時代を、それを物語る資料や記憶から紹介します。



古家ホテル記念帳 昭和20年



記章
(満州派遣関東軍飛行隊)



板橋区隣組回報 (金属類非常回収実施) 昭和19年

収蔵品展

令和7年10月11日(土)～12月14日(日)
October 11 (Sat.) – December 14 (Sun.)

ようこそ中山道板橋宿へ! ～江戸時代の旅人たちとタイムトラベル～

江戸に幕府が開かれ、街道と宿場が整備されたことで、多くの人びとが全国各地を行き交うようになりました。区内を通る五街道の一つである中山道は、江戸の日本橋から京都の三条大橋までを結ぶ街道で、道中には69の宿場が置かれました。旅人たちは宿場で休泊をとりながら、目的地へと歩みを進めました。

板橋宿は江戸から数えて1番目の宿場であり、江戸と近郊農村との境界域に位置していました。宿場には、宿泊施設の他に酒食を商う茶屋などもありました。諸大名の参勤交代や庶民の旅などで多様な人びとが訪れた板橋宿は、江戸の玄関口、出迎えの場として大いに賑わいました。

本展では、中山道板橋宿を行き交う旅人と、彼らを迎えた宿場の人びとに注目して、江戸時代の旅をご紹介します。現代の私たちにも通じる旅を楽しむ心をお楽しみください。



木曾街道板橋之驛



青漆土筆蒔絵吸物椀(豊田家資料)

磁石

没後160年 記念展

令和8年1月24日(土)～3月15日(日)
January 24 (Sat.) – March 15 (Sun.)

高島秋帆 ～高島平のはじまり～

高島秋帆は、長崎町年寄出身の西洋流砲術を完成させた砲術家です。天保12年(1841)5月9日高島秋帆とその弟子99人は、幕命により武州徳丸原、現在の区内高島平において西洋式砲術演習を行いました。この演習は、戦国時代以来の砲術を主体とする幕府や各藩に大きな衝撃を与え、多くの藩が西洋流砲術を導入しました。この徳丸原で行われた西洋式砲術演習を契機として、各地において軍事技術の西洋化が拡大したことから、高島秋帆と西洋流砲術は、日本における西洋の近代的な軍制を取り入れる契機になったといえます。

高島秋帆は、徳丸原の演習の翌年、罪により中追放の処分を受け、岡部藩預かりとなり、自由を制限された生活を送ります。その後、嘉永6年(1853)のペリー来航を機に罪を解かれ、幕臣として復帰します。復帰した高島秋帆は、幕府が設置した訓練施設である講武所の砲術師範を務め、砲術の指導者として活躍します。

慶応2年(1866)1月14日、秋帆は、幕府の終焉を見ることなく亡くなり、令和8年(2026)には、没後160年を迎えます。

高島秋帆が演習した地である徳丸原は、昭和36年(1961)頃から土地開発の計画が持ち上がり、昭和40年に板橋区都市区画整理事業として団地建設が決定しました。団地の建設に伴い、新しい住居表示を決める際、かつて徳丸原で活躍した高島秋帆から「高島平」と名付けることが決まりました。高島平は、大規模な再開発が決まり、新たな一歩を踏み出そうとしています。本展覧会では、高島平の地名の由来になり、没後160年を迎える高島秋帆と再開発が決まった高島平の誕生と団地開発について紹介します。



西洋砲術の伝書



高島秋帆脇差 松月院所蔵

コルス皿

コレクション展 1階

令和7年1月28日(火)～4月27日(日) **速報展 小豆沢村の名主**
～いたばしの暮らしの変化～

4月29日(火・祝)～8月8日(金) **日本刺繍**
～針と糸で紡ぎ出す世界～

8月9日(土)～12月19日(金) **資料でたどるいたばしと戦争**

12月20日(土)～令和8年4月24日(金) **お江戸いたばしの蔵書**

ミニ企画展 1階

令和7年4月1日(火)～7月25日(金) **ちよつと昔の道具Ⅰ**

7月26日(土)～11月28日(金) **ちよつと昔の道具Ⅱ**

11月29日(土)～令和8年4月3日(金) **ちよつと昔の道具Ⅲ**

年中行事 古民家付近

令和7年4月5日(土)～5月6日(火・休) **端午の節供**

6月28日(土)～7月6日(日) **タナバタ祭り**

9月27日(土)～10月5日(日) **お月見**

令和8年1月10日(土)～1月18日(日) **マユダマ飾り**

2月14日(土)～4月5日(日) **桃の節供(ヒナマツリ)**